



米田の補題

C を圏¹とする. C の対象 A, B に対して, A から B への射 $A \rightarrow B$ 全体の集合を $\text{Hom}_C(A, B)$ で表す. 圏 C の逆転圏を C^{op} で表す. 集合全体のなす圏を \mathbf{Set} で表す.

定義. C を圏とする.

- 反変関手 $C^{\text{op}} \rightarrow \mathbf{Set}$ を C 上の前層という.
- C 上の前層全体のなす圏²を C^\wedge で表す.

米田の補題の主張に現れる特別な前層を定義する.

命題. C を圏とし, A を C の対象とする.

- C の対象 X に対し, $h_A(X) = \text{Hom}_C(X, A)$ とおき, C の射 $f: X \rightarrow Y$ に対し,

$$h_A(f): \text{Hom}_C(Y, A) \rightarrow \text{Hom}_C(X, A); g \mapsto g \circ f$$
 とおく. このとき, 反変関手 $h_A: C^{\text{op}} \rightarrow \mathbf{Set}$ が定まる.

- C の対象 X に対し, $h^A(X) = \text{Hom}_C(A, X)$ とおき, C の射 $f: X \rightarrow Y$ に対し,

$$h^A(f): \text{Hom}_C(A, X) \rightarrow \text{Hom}_C(A, Y); g \mapsto f \circ g$$
 とおく. このとき, 共変関手 $h^A: C \rightarrow \mathbf{Set}$ が定まる.

証明. 斎藤毅 数学原論 命題 1.5.2 または, 表現される関手 (Hom 関手)³を参照. □

定義. C を圏, A を C の対象とする. 上の命題で定まる C 上の前層 $h_A: C^{\text{op}} \rightarrow \mathbf{Set}$ と, C^{op} 上の前層 $h^A: C \rightarrow \mathbf{Set}$ を, A によって表現される関手という.⁴

命題 (米田の補題). C を圏とし, A を C の対象とする.

- F を C 上の前層とする. $a \in F(A)$ と, C の対象 X に対して, 写像

$$a_X: h_A(X) = \text{Hom}_C(X, A) \rightarrow F(X); f \mapsto F(f)(a)$$

は, C 上の前層の射 $\varphi_a \in \text{Hom}_{C^\wedge}(h_A, F)$ を定める. さらに, 写像

$$F(A) \rightarrow \text{Hom}_{C^\wedge}(h_A, F); a \mapsto \varphi_a$$

は可逆である. 逆写像は, $\varphi(A)(1_A) \leftarrow \varphi$ である. ($1_A: A \rightarrow A$ は単位射)

- F を C^{op} 上の前層とする. $a \in F(A)$ と, C の対象 X に対して, 写像

$$a_X: h^A(X) = \text{Hom}_C(A, X) \rightarrow F(X); f \mapsto F(f)(a)$$

は, C^{op} 上の前層の射 $\varphi^a \in \text{Hom}_{C^{\text{op}\wedge}}(h^A, F)$ を定める. さらに, 写像

$$F(A) \rightarrow \text{Hom}_{C^{\text{op}\wedge}}(h^A, F); a \mapsto \varphi^a$$

は可逆である. 逆写像は, $\varphi(A)(1_A) \leftarrow \varphi$ である.

¹局所的に小さい圏すなわち, C の対象 A, B に対して, $\text{Hom}_C(A, B)$ が集合となる圏

² C^\wedge の対象は関手 $C^{\text{op}} \rightarrow \mathbf{Set}$ であり, 射は関手の射 (自然変換) である.

³<https://gleamath.com/hom-functor01>

⁴ C の逆転圏 C^{op} の逆転圏 $(C^{\text{op}})^{\text{op}}$ は, C である.

証明. 1つ目の主張（反変関手に関するもの）の証明は、斎藤毅 数学原論 命題 1.5.4 を参照. 2つ目の主張（共変関手に関するもの）を証明する. まずは, $a \in F(A)$ と, C の対象 X に対して定まる写像 $a_X : h^A(X) \rightarrow F(X)$ が, C^{op} 上の前層の射 $\varphi^a : h^A \rightarrow F$ を定めることを示す. そのためには, C の対象 Y と, $g \in \text{Hom}_C(X, Y)$ に対して, 図式

$$\begin{array}{ccc} h^A(X) = \text{Hom}_C(A, X) & \xrightarrow{h^A(g)} & \text{Hom}_C(A, Y) = h^A(Y) \\ a_X \downarrow & & \downarrow a_Y \\ F(X) & \xrightarrow{F(g)} & F(Y) \end{array} \quad (1)$$

が可換であることを示せば良い. 右回り, 左回りの $f \in \text{Hom}_C(A, X)$ の像はそれぞれ,

$$\begin{aligned} a_Y \circ h^A(g)(f) &= a_Y(g \circ f) = F(g \circ f)(a), \\ F(g) \circ a_X(f) &= F(g) \circ F(f)(a) \end{aligned}$$

と計算でき, 関手 F の共変性から,

$$F(g \circ f) = F(g) \circ F(f), \quad (2)$$

が成り立つので, 図式 (1) は可換である.

次に, 写像 $F(A) \rightarrow \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F)$ が可逆であることを示す. $a \in F(A)$ は, 合成写像で,

$$\begin{array}{ccccc} F(A) & \rightarrow & \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F) & \rightarrow & F(A) \\ a & \mapsto & \varphi^a & \mapsto & \varphi^a(A)(1_A) \end{array}$$

と写る. ここで, $\varphi^a(A) = a_A : h^A(A) = \text{Hom}_C(A, A) \rightarrow F(A)$ に注意すると,

$$\varphi^a(A)(1_A) = a_A(1_A) = F(1_A)(a) = 1_{F(A)}(a) = a$$

が成り立つ⁵ので, 上の合成写像は恒等写像である. もう一方の合成写像も恒等写像であることを示す. $\varphi \in \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F)$ に対して, $b = \varphi(A)(1_A)$ とおくと, φ は, 合成写像で,

$$\begin{array}{ccccc} \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F) & \rightarrow & F(A) & \rightarrow & \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F) \\ \varphi & \mapsto & \varphi(A)(1_A) = b & \mapsto & \varphi^b \end{array}$$

と写る. C の対象 Z と, $h \in \text{Hom}_C(A, Z)$ に対して, $\varphi(Z)(h) = \varphi^b(Z)(h)$ であることを示せば良い. これらはそれぞれ,

$$\begin{aligned} \varphi(Z)(h) &= \varphi(Z)(h \circ 1_A) = \varphi(Z) \circ h^A(h)(1_A), \\ \varphi^b(Z)(h) &= b_Z(h) = F(h)(b) = F(h)(\varphi(A)(1_A)) = F(h) \circ \varphi(A)(1_A) \end{aligned}$$

と計算できるが, 図式

$$\begin{array}{ccc} h^A(A) = \text{Hom}_C(A, A) & \xrightarrow{h^A(h)} & \text{Hom}_C(A, Z) = h^A(Z) \\ \varphi(A) \downarrow & & \downarrow \varphi(Z) \\ F(A) & \xrightarrow{F(h)} & F(Z) \end{array} \quad (3)$$

が可換であることから⁶, $\varphi = \varphi^b$ が従う. よって, $F(A) \rightarrow \text{Hom}_{C^{\text{op}}}(h^A, F)$ は可逆である. \square

⁵関手の性質 $F(1_A) = 1_{F(A)}$ を用いた.

⁶図式 (1) において, $X = A, Y = Z, g = h$ とすれば良い.